

## 身体化及び脱身体化による概念形成：RESTLESS と BORING の形成を通して

本発表は、メタファーにおける身体化及び脱身体化の経路を実験的に求め、話者がどのようにして RESTLESS や BORING のような概念を形成、理解しているのかを考えるものである。

身体化とは身体と環境の相互作用を通して現実世界の事物を捉える方策であり、我々は自らの身体経験を基に多くの概念を獲得している (Evens 2007)。思考や言語は繰り返される身体経験に基づいており (Gibbs 2006:9-10, 2008)、身体経験に基づく経験基盤の確立が推論や学習を支え (Feldman 2006:7-8)、身体感覚や身体動作を掌る仕組みが概念化や推論を形成する (Lakoff and Johnson 1999:37-38, Johnson and Lakoff 2002)と考えられる。また、身体化の共通性 (e.g. Sharifian et al. 2008) や脳機能の局在化の側面 (e.g. Feldman and Narayanan 2004) から身体経験と概念形成の関係を捉えようとする試みも見られる。

身体化とメタファーの関係に関する研究の中に、概念メタファーに基づく概念の拡張経路の研究 (e.g. Bergen and Feldman 2008, de Vega et al. 2008, Johnson and Rohrer 2008) があるが、概念メタファー (e.g. ANGER IS HEAT) は本来ソース (HEAT) からターゲット (ANGER) への「脱身体化 (抽象化)」を体現したものであり、メタファー拡張とは脱身体化に他ならない (cf. Kövecses 2010:118)。一方、完全に脱身体化した概念が存在しない (Johnson 2005, 2007) と考えられる点も、身体化とメタファーの関係を考える上で重要な点である。本発表では特定のメタファー表現 (e.g. “mind-numbing conversation”) に加え、その表現に結びついた身体イメージを取り上げ、どのような身体経験がどのように脱身体化し、抽象的な概念に繋がっていくのかを見ていく。

身体経験の脱身体化の経路を明確に捉えるために、「揉む」(to rub/squeeze) と “to numb” (かじかむ/麻痺する) に関わるメタファーを利用する。日英語母語話者 (各 25 名) を対象とした実験では、二種類のメタファー表現、①「結果に気を揉む」とこれに相当する “to rub (and squeeze) one’s mind for the result”、② “mind-numbing conversation” とこれに相当する「心がかじかむ (麻痺する) 会話」を単体 (コンテキストなし) で提示し、各表現の使用頻度、意味を記述式アンケートで確認後、インタビューにより (各表現から) 思い浮かぶイメージを (ジェスチャーを交えて) 調査し、最後に母語

における意味とイメージの関係を非母語話者に提示し、メタファー表現の理解の程度を確認した。

結果、①は、日本語の使用頻度は高く「結果を心配してあれこれと悩む」の意味が、英語では頻度は極めて低く“to try to find an answer by thinking hard”の意味が見られた。②は、英語での使用頻度は高く“boring conversation”の意味が、日本語での頻度は極めて低く「感情のこもってない会話」の意味が観察された。イメージに関して、①は、日本語話者はそわそわして落ち着かない様子及び波線・ジグザグ線を思い浮かべ、「気を揉む」は断続的に圧力がかけられ不安定になっている状態を示していることを、体（の一部）を動かしたり、立ったり座ったりを繰り返す身振りで説明した。英語話者は考え苦しむ様子を思い浮かべ、“to rub (and squeeze) one’s mind”が頭を懸命に働かせることであることを、頭を両手で押さえる身振りで説明した。②は、英語話者は、面白みに欠けた終わりのない会話風景及び水平線を思い浮かべ、“mind-numbing”が無感動・無関心を示すことを、水平線を描く手振りで説明した。日本語話者は、元気のない会話風景を思い浮かべ、「心がかじかむ（麻痺する）」は心が冷えて固まり反応していないことを、体（上半身）が固まる身振りで説明した。最後に、母語における意味と（母語話者が示す）イメージ及びジェスチャーを非母語話者に説明したところ、①はほとんどの英語話者（88%）が、②は全日本語話者が理解するに至った。

母語話者の示すイメージ及びジェスチャーから脱身体化の経路を想定すると、①は RUBBING (SQUEEZING) から STRESSED/UNSTABLE 等の概念を経由して RESTLESS に、②は NUMBING から MONOTONOUS/CONTINUOUS 等の概念を経由して BORING にそれぞれ至っており、両経路とも触覚及び運動感覚が段階的に脱身体化していると考えられる。また、非母語話者の理解が、（母語話者が示す）イメージ及びジェスチャーを通して可能であった点は、上記とは逆の経路、「身体化（具体化）」の経路が存在するとも捉えられる。

RESTLESS IS RUBBING (SQUEEZING) 及び BORING IS NUMBING という二つの概念メタファーの成立には、上述した段階的な脱身体化が重要な役目を果たしている。脱身体化の段階性は、母語話者に対して通常埋没していると考えられる身体経験を想起させるだけでなく、非母語話者に対しても言語化していないメタファー表現の理解を可能にする。また、非母語話者が身体化の経路を想定することが可能であるのは、

RESTLESS 及び BORING が完全には脱身体化していない、つまり母語話者の示す脱身体化の経路が（言語化していない場合でも）潜在的に存在していることを示している。この脱身体化の潜在性が身体経験に基づく（メタファーによる）概念形成の普遍性を支えていると考えられる。

## 参考文献

- Bergen, Benjamin, and Jerome Feldman. 2008. Embodied concept learning. In Paco Calvo and Antoni Gomira eds., *Handbook of cognitive science: an embodied approach*, pp.313-331. Amsterdam: Elsevier.
- de Vega, Manuel et al. 2008. Reflecting on the debate. In Manuel de Vega et al. eds., *Symbols and embodiment: debates on meaning and cognition*, pp.397-440. Oxford: Oxford University Press.
- Evans, Vyvyan. 2007. *A glossary of cognitive linguistics*. Salt Lake City: The University of Utah Press.
- Feldman, Jerome A. 2006. *From molecule to metaphor: a neural theory of language*. Cambridge, MA: The MIT Press.
- Feldman, Jerome and Srinivas Narayanan. 2004. Embodied meaning in a neural theory of language. *Brain and Language* 89, 385-392.
- Gibbs, Raymond W. 2006. *Embodiment and cognitive science*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Gibbs, Raymond W. 2008. Metaphor and gesture. In Alan Cienki and Cornelia Müller eds., *Metaphor and gesture*, pp.291-301. Amsterdam: John Benjamins.
- Johnson, Mark. 2005. The Philosophical significance of image schemas. In Beate Hampe ed., *From perception to meaning: image schemas in cognitive linguistics*, pp.15-33. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Johnson, Mark. 2007. The embodied mind and the illusion of disembodied thoughts. In Brendan Wallace et al. eds., *The mind, the body and the world: psychology after cognitivism?*, pp.33-48. Exeter: Imprint Academic.
- Johnson, Mark, and George Lakoff. 2002. Why cognitive linguistics requires embodied realism. *Cognitive Linguistics* 13, no.3, 245-263.
- Johnson, Mark, and Tim Rohrer. 2007. We are live creatures: Embodiment, American Pragmatism and the cognitive organism. In Tom Ziemke et al. eds., *Body, language and*

- mind. Volume 1: Embodiment*, pp.17-54. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Kövecses, Zoltán. 2010. *Metaphor: a practical introduction*. 2nd. ed. Oxford: Oxford University Press.
- Lakoff, George, and Mark Johnson. 1999. *Philosophy in the flesh: the embodied mind and its challenge to western thought*. New York: Basic Books.
- Sharifian, Farzad et al. 2008. Culture and language: looking for the “mind” inside the body. In Gitte Kristiansen et al. eds., *Culture, body and language: conceptualizations of internal body organs across cultures and languages*, pp.3-23. Berlin: Mouton de Gruyter.